

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2010.07.July vol.13-1

島根の政権交代 次はかならず

あきらめず次につなげる

7月11日の参議院議員選挙は残念な結果に終わりました。応援していただいた皆さんには申し訳ない結果でした。

岩田ひろたかさんという素晴らしい候補を得ながら、島根の政権交代を実現することができず、まだまだこの地域の保守地盤は厚いと感じています。今回の敗因にはいろいろと言われているのですが、私は二つあると思います。

一つには、菅首相のぶれた発言にあります。民主党に期待を寄せていた有権者の皆さんには、鳩山元首相の普天間をめぐる発言、そして、今回の菅首相の消費税をめぐる発言と、果たして民主党に任せてこの国に行く末は大丈夫かと心配され、その人たちが民主党から離れ

ていったのではないかと考えます。

今の財政の厳しい状況を見れば、税の見直しも必要であることは、国民誰しも思っていることではあります。せつかく、事業仕分けで取り組んでいるように、まずは無駄な事業を削減し、本当に今必要な事業は何かを国民に明らかにしたうえで、財源が足りなければ、

どうやって必要な財源を生むのかという話を筋道立てて説明しなければならなかったのに、説明不足で皆さんに納得してもらえませんでした。

もう一つの敗因は、民主党の地方組織の弱さです。この選挙期間中、菅首相をはじめ多くの関係、党役員が応援に来られませんでした。周知のためのビラの配布や電話での案内などをこれまでに以上に取り組み、たくさんの人たちに街頭演説を聴きに出掛けていただきました。

しかし、それを大きな風とすることができず、逆に相手陣営の奮起を促し、巻き返しに遭ってしまったということです。相手陣営に属する地方議員は、私たちの10倍です。残念ながらその数の力に負けてしまいました。

来年は、私の県議会議員選挙をはじめ知事選など統一地方選があります。まずは、議員の増員を目標に取り組むことであり、応援してくださる方々のしっかりとしたネットワークを作ることです。



選挙結果を受けてあいさつをする岩田ひろたかさん

岩田ひろたかさんは、ブログで「地域の閉塞感や未来への不安を取り除くのは政治の使命です。そしてお金や地盤や名前がなくても、志のあるものが政治の世界に挑戦できる社会は、未来を拓く可能性にあふれた社会であると思います。島根の自然や歴史・文化、心豊かな人々。その1つ1つを政治が下から支えていける、そんな社会、そんな日本を実現するために岩田ひろたかは挑戦を続けます」と述べています。岩田さんのこの決意を遂げさせるためにも、私たちはあきらめず、島根の政権交代をめざして頑張ります。



美知夫人とともに最後の訴えをする岩田ひろたかさん

六月定例議会報告

6月1日から22日まで、六月定例議会が開かれました。

今回は、私は一問一答方式で一般質問を行いました。知事の地方主権に対する考え方について、高齢者支援について、そして、ふるさと納税について質問を行いました。十分に質問できないうちに終わってしまいました。この課題については再度挑戦です。

本会議での質問や委員会での質問などの詳しい内容については後日報告いたします。

今回は、議案の一つである補正予算について報告します。

補正予算（航空路維持）

を考える

今回の6月議会では、航空路線を維持するために、利用促進を図る運賃助成等に1億円近いお金を使う補正予算案が提案されました。

特に、存続が危ぶまれる石見空港は、建設計画当初の需要予



一問一答で一般質問

測は現状の10倍を見込んだ計画となっており、その計画の甘さと路線開設後の取り組みの不十分を今に露呈しています。今回は補正予算について賛成はしましたが、この結果を見たうえで、今後この空港をどうするのか地元の皆さんも巻き込んでしっかりと議論して、結論を出す必要があります。

6月議会中に、民主県民クラブで県西部の公共交通についての勉強会をしました。

人口減少に伴い利用客が減る公共バス交通はその存続が難しくなりつつあり、石見地方の中山間地では私鉄バス路線の廃止が提案されています。会

社としては収益が見込めなければ廃止せざるを得ないのかわかりませんが、高齢化が進む中にあつて、お年寄りや子どもたちの移動手段であるバスがなくなることは地域での生活ができなることにつながります。

地域で助け合うシステムがあればまだしも、集落のほとんどが高齢化している中ではそれも難しくなっています。行政が何らかの形で公共交通など移動手段を確保する手立てを考えなければいけません。

空路以上に、日々の生活に密着した公共交通のほうの存続を考えることが、高齢化が進む島根にあつてはより重要ではないかと考えます。石見空港のように2時間以内で近くの空港にアクセスできる環境にあつて、本当に路線の存続が必要かどうか、それよりもその空港へのアクセス環境を整備することなど、地域住民の生活に視点を置きいろいろな面から考える必要があるのではないのでしょうか。

山陰両県議員で勉強会

鳥取県議会民主系会派「絆」

と島根県議会民主県民クラブとの合同勉強会を4月27、28日に行いました。一日目は活動の状況、政権交代で議会がどう変わったかなどについての情報交換と今後の取り組みについて意見交換しました。

2日目は、大橋川改修について国土交通省出雲事務所の説明を大橋川コミュニティセンターで聞き、現場を見ながら鳥取県へ移動し、美保基地の視察を行いました。

今回の中で、特に美保基地の視察は初めてのことでとても勉強になりました。施設内を案内していただき、管制塔の見学、輸送機C-1ジェットやYS-11、救急搬送の様子や救急活動の様子を見学。食堂では自衛隊の皆さんと交流をかねて、隊員の皆さんが食べているのと同じ昼食をいただきました。

私の前に座られたのは松江出身の隊員の方で、仕事の内容や勤務の状況などを聞きながら



美保基地の隊員から説明を受ける

食事をしました。常に緊急時を意識しながらの勤務は大変です。

施設や機材は古いものが多いのですが、丁寧に使われている様子がうかがえました。C-1ジェットは35年以上になるということですし、救急車は最近換えられたのですが、それまでのものは30年使ったということでした。格納庫は戦前の建物もあり、雨漏りがしているとの話でした。

ここは災害時や緊急時の物資や人員の輸送基地であり、島根県も隠岐島での救急患者の輸送にお世話になっています。また、出雲空港の航空管制もしており、鳥取県にありながら島根県も大変お世話になっている施設です。